いどばた

気仙沼コミュニティペーパー

第16号

発行
2013年
4月9日

2013年3月11日、東日本大震災から2年が経ちました。市内では様々な場所に献花台が設置され、14時46分には犠牲者の方々へ黙とうが捧げられました。また、3.11に関連したセレモニーも行われ、祈りの想いが込められたものや、人々を元気づけてくれるものなど数多くありました。その一部をご紹介します。

あの日を思い…

「EGG OF HOPE」
エッグ オブ ホープ

南町にある風の広場に設置された「EGG OF HOPE」は、希望のたまごという意味のオブジェです。復興の願いが込められ、3月9日・10日の夜には、ソーラーと自転車発電によって作られた電力でライトアップされました。

「星の絆イルミネーション」

魚町の岩手銀行気仙沼支店跡地で行われた「星の絆イルミネーション」は、3月2日から16日まで開催されました。そのイルミネーションは、約1万個のLED電球が使用され、幻想的な青い光が見ている人を癒してくれました。

「3月11日からのヒカリ」

3月11日に行われた「3月11日からのヒカリ」。防災無線から流れる“見上げてごらん夜の星を”のメロディを合図に、光の柱を立ちあげました。3本の光は、忘れてはならない震災の記憶を心に刻み、未来へと進む希望の光となりました。

「3.11追悼打ち上げ花火」

3月16日に予定されていた「追悼打ち上げ花火」でしたが、強風のため翌日開催となりました。時間差で色を変えるものや、蝶のような形のものなどさまざまな花火が打ち上がり、子供から大人まで歓声を上げながら夜空を見上げていました。

今回のいどばたで取り挙げられた他にも、さまざまなイベントがあり復興を願う人々が集いました。私たちは、忘れてはならないあの日の記憶と共に前へ進んでいかなくてはなりません。『自分たちの明日・そして未来』を自分たちの手で作り上げて行きましょう。

手仕事品展示会

前回のいどばた15号に掲載した、「手仕事品展示会」の詳しい商品紹介をしていきます♪今回は…こちらの2団体！！
【今後も引き続き、取り上げていきますのでお楽しみに(　^ω^)！】

とちぎボランティアネットワーク

商品名
【まけないぞう】

価格
400円

阪神・淡路大震災の時に誕生した壁掛けタオルの『まけないぞう』。被災地の仕事づくりや生きがいづくりとして、現在は東北に広がりネット販売されています。まけないぞうを通じて『人の輪』が広がっています！！

ネット販売先：http://www.tochigivnet.com/

ククイナッツリボンレイストラップの会

商品名
【福幸のわ】

価格
500円

ククイナッツと呼ばれる木の実とリボンを組み合わせたストラップ！！「ククイ」には、ハワイ語で“光”という意味があることから、作り手の方は、“復興への希望”という意味に繋げ、商品には『3.11を忘れないでほしい』という思いがこめられています。

ネット販売先：http://morgenrot.jp/fukko/index.html

つぼみ菜の混ぜご飯

ごま油が香る栄養満点の混ぜご飯★

材料（1人分）

ご飯(炊きたて)・・・1膳分
つぼみ菜・・・1/2束
エリンギ・・・(みじん切り)1/2本
ニンジン・・・(みじん切り)1/8本
卵・・・1個
塩・こしょう・・・少々
しょう油・・・小さじ1.5
ごま油・・・小さじ1・大さじ1

❶ つぼみ菜は水洗いしてからラップで包み、レンジで 2分加熱します。レンジから取り出したら、ラップを開いて冷まします。あら熱が取れたら細かく刻み、ごま油小さじ1と少し多めの塩・こしょうを絡めます。

下味をしっかりつけることがポイント!!

❷ ごま油大さじ1をフライパンで熱し、みじん切りにしたエリンギ、ニンジンを炒めます。そこにしょう油と溶き卵を加え、卵がポロポロになるまで炒めましょう。

❸ 最後に炊き立てのご飯に①と②を混ぜ合わせれば出来上がり！！

冷ご飯が炊き立てに変身!?

ご飯1膳に対して、スプーン1杯分の水を全体にふりかけ、ラップをして電子レンジで加熱します。
するとご飯がふっくらして、まるで炊き立てのようになります！！
炊き立てのご飯が無い場合はこの方法を使ってみてください(*^^)v

ひなまつり

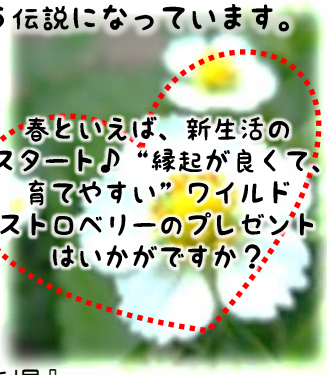
3月2日(土)に、赤岩舘森(①・②)仮設住宅と赤岩老松(北・南)仮設住宅合同で自治会主催の雛祭りが行われました。この会は、自治会長さんの**「自治会で雛祭りをしたい！」**という声がきっかけになったそうです。会のメインは**『桜餅作り♪』**桜餅を一から手作りしたことがあるKRAスタッフが、桜餅作りのサポートにはいりました。「お菓子作りは初めて…。」というお父さん方も、桜餅作りに初挑戦！！作るスピードがみるみる上がり、完成度の高い桜餅が次々と出来上がっていく様子が印象的でした(＾ー＾)

お昼時間には、みんなが心をこめて作った桜餅とお母さん方が、この日のために用意をしてくれた手料理を囲みながら「手作りの桜餅はおいしいね♪」「みんなで集まる機会があるといいね♫」など嬉しい会話の聞こえる、和気あいあいとした会食が行われましたヽ(^ω^)ノ！

ワイルドストロベリーって？

『可愛らしい小さな白色の花を咲かせる、小粒の苺』

バラ科の多年草(ハーブ)で、和名をエゾヘビイチゴといいます。花言葉は、尊重と愛情。ヨーロッパではLucky&Love(幸運と幸せ)を運んでくれる、アメリカではMiracle(奇跡)を呼ぶと言われています。『何世紀にもわたって、幸せを呼ぶと言われたり、愛を実らせる』という伝説になっています。



『特徴』
- 野生種の苺なので、育てやすい。
- 香りが強く、寒さにも強い。

『開花期』
- 休眠期(真夏・真冬)を除く年中、開花して実をつける。

『苗の植え付け時期』
- ３月頃～６月下旬頃が目安。

『水やり』
- 乾燥に弱いので、土の表面が乾いてきたらたっぷりと与える。

『置き場』
- 日当たりと、風通しの良い所が望ましいが、半日陰などでもOK。

『肥料』
- 植えつけてから50日くらい経った頃に与える。
- 葉っぱの色が、薄くなってくるサインも見分けるポイント。
- 開花期には、１週間に1回くらい水で薄めた「液体肥料」「植物活性剤」を与える。

『その他』
- 風通しが悪いとカビの発生や病気の原因になるので、枯葉はこまめに取り除くこと。

『花言葉』
スミレ：小さな幸せ・誠実
パンジー：信頼・心の平和

「みちびき地蔵」をご存知ですか？

大島の田中浜付近に「**みちびき地蔵**」と呼ばれる木製のお地蔵様が祀られています。みちびき地蔵は“亡くなった方の魂を極楽浄土へ導いてくれる”という言い伝えがあり、大島の人々から大切にされてきました。しかし、津波により地蔵堂は全壊し、みちびき地蔵も行方が分からなくなってしまいました。そんな中、インターネットで公開されていたみちびき地蔵の動画が話題になり、2011年8月には地蔵堂再建に向けての作業が始まりました。みちびき地蔵の製作は、当時大学生だった大島出身の小野寺佑紀さんに大島観光協会が依頼しました。地蔵堂再建の費用には、京都府綾部市の方々からの寄付金や、みちびき地蔵の絵本販売の収益金などがあてられました。2012年10月に地蔵開眼法要と地蔵堂落成式が行われ、大勢の人々がお供え物を持ってお参りに来ていたそうです。

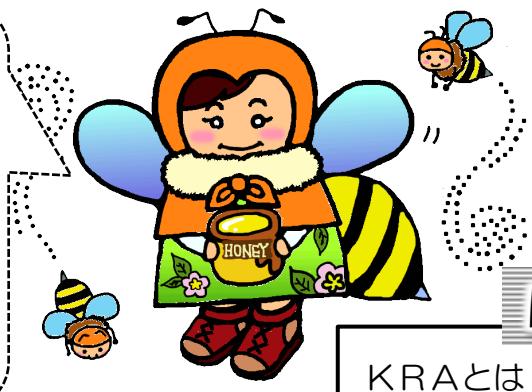
みちびき地蔵にまつわる昔話が書いてあります。

みちびき地蔵を作った小野寺佑樹さんにインタビューをしてきました。

震災後は、木彫りで作った仏像を大島のお寺に収めたり、家族を亡くされた方のご遺族に配ったりしていました。仏像を彫ることが震災後の心の支えになっていたので、みちびき地蔵の依頼が来たときは“自分しかやれる人はいない。きっとお地蔵様が導いてくれたんだろう”と感じました。みちびき地蔵は大島の瓦礫や、流されてしまった地蔵堂の木材を寄せ集めて作り、完成までに約半年かかりました。その後も何度か様子を見に行きましたが、その度に必ず誰かがお参りしているのを見ると、【震災で心に空いてしまった穴を埋めてくれるもの】になったのではないかと思います。

みちびき地蔵製作者
おのでら　ゆうき
小野寺　佑紀さん

みんなに教えたい・記事にしたいお話やおすすめのレシピなどがあったら、是非教えてください★



17号の発行は4月下旬～5月上旬の予定です✿

ＫＲＡってなに??

ＫＲＡとは「**気仙沼復興協会**」の略です。**気仙沼市民の手で気仙沼を復興させる**ことを目的とし、震災による失業者を中心に結成されました。がれき撤去・害虫駆除、写真洗浄、ボランティアの受け入れ、仮設住宅や周辺地域のコミュニティ支援などの復興事業を行っています。

作成・編集
(社) 気仙沼復興協会【KRA】福祉部
気仙沼市魚市場前7-13海鮮市場海の市3F
TEL 0226-22-6211　FAX 0226-22-6212